
＊ ニュースレター ＊

2003年8月号より



会員みなさまへ
[21世紀の審美歯科](#)
[—健康科学としてのトータル・コーディネート—](#)
日本歯科審美学会監事・前会長 岩久正明

会員みなさまへ
[未来を先駆する歯科審美学会セミナーをめざして](#)
日本歯科審美学会・セミナー委員長 佐藤 孝



[第14回日本歯科審美学会のご案内](#)



[第8回アジア歯科審美学会のご案内](#)
Global Esthetic Forum 2004@NAGOYA
Sciences in Esthetic Dentistry
(審美歯科をサイエンスする)

[セミナーのご案内](#)
審美歯科を先駆する

[審美学会セミナー・シンポジウムIIに参加して](#)
東京都開業 栗原俊也

[委員会報告](#)

[美白の世界—Beautiful Ageing—](#)
東京都開業 武田英司

[関連学会開催案内](#)

| [Back](#) |



2003年8月号より

会員のみなさまへ



21世紀の審美歯科

—健康科学としてのトータル・コーディネーター—

日本歯科審美学会監事・前会長 岩久正明

本分野では今、急速に進歩する学理・機材・技術のもとで、多様化する国民のニーズにいかに対応していくかが問われている。しかし、それはただ国民の求めにいかに対応するかのようイメージを持たれ、一般医療についての最近のマスコミ等によるインフォームドコンセントについての表現も、そのように理解されがちである。

しかしながら、特に21世紀の審美歯科学、歯科審美医療においては、メディカル・ケア・プロフェッショナルとしての本来の責任は、そのような受身の姿勢ではなく、患者一人一人に、個性豊かで、心身ともに健康で、高度なQOLにもとづく充実した社会生活を演出できるトータル・コーディネーターとしての資格が求められる。我々の分野は、顎・顔面・口腔がその中心であることは言うまでもないが、それらが常に、まず人の存在の第一印象になることを考えると、トータルはそこから始まる。歯科審美としては、従来から取り組まれてきた形態・色彩・機能美などの見える審美から、口臭などの見えない審美、言葉のように耳で感じる審美、美しさ・醜さを時として表情で感じさせる心の審美、その範囲は極めて広いが、いずれも、われわれの専門分野とは切っても切れない関係にある。しかも、人々は相互に、それをあらゆる感覚で認知する。

本学会は、過去15年余に亘って、各種専門分野の多才な人材により、地味ではあるが、充実した学際的研究活動を続け、これまで蓄積してきた成果を、学会のみならず、多角的セミナーを開催し、多くの会員へ還元すべく積極的に取り組んでいる。

その目的は、クリエイティブな姿勢で個々の患者にオーダーメイドの対応ができる審美の専門家・すなわち認定医を世に出し、社会に貢献することにある。

現代社会では、十分な情報の提供は専門家としての社会的責任であり、本学会もホームページに認定医を公開することに踏みきった。その数は現在あまりにも少ないが、学会員の臨床家の中には多くの優秀な専門化足りうる人材が見受けられる。どうぞ、速やかに、申請をして、社会の要請に応じて頂くことを希望している。



2003年8月号より

会員みなさまへ

未来を先駆する歯科審美学会セミナーをめざして

日本歯科審美学会・セミナー委員長 佐藤 孝

2001年7月より始まりました日本歯科審美学会セミナーも、本年3月までに2回のシンポジウムを含めて、通算7回を開催し、一区切りいたしました。

本学会初めての試みに多くの会員諸氏の御協力を頂き、毎回200名、のべ人数1500名余の御参加を頂きました。又、このセミナーを機会に本学会に入会された方が400名を越えたことは、本会にとって非常に喜ばしいことです。

さて振り返ってみますと、本セミナー開催の趣旨は、21世紀を迎えるにあたり、本学会の新たな目標と方向性を示すべく、又より臨床的な実践論を伝えるべく、本学会会員及び、一般臨床家向けのセミナーを企画し、その中で知識、技術、理念、そして新しい情報の提供を行い、又、一般社会に対する審美歯科の正しい啓蒙を行うことでした。幸いにも、各方面の第一線でご活躍されていらっしゃる先生方を演者としてお招きすることができ、毎回のテーマごとに内容の奥深さを、興味をもってお伝えすることができたのではないかと思います。

「新世紀の審美を拓く」をメインテーマとして通算7回のセミナーが開催されましたが、その中で感じられたことは、新世紀を拓くことは未来を拓くことであり、そのためには現在を変えることである。その変化を良い機会として捉えることにより新たな世界が拓けることになるということではないでしょうか。その多くのヒントをセミナーの中でつかんで頂けたと思います。

全く初めての試みだっただけに果たして参加人数が集まるだろうかと毎日不安をつのらせておりましたが、会員及び協賛法人各社の皆様のご協力を得て、毎回200名近くの方々に御参加を頂いたことは、大変有り難く感じております。又、セミナーの多くの参加者がリピーターだけでなく毎回新規参加者が多かったこと。このことからみても、歯科審美学会セミナーを通し、審美歯科というものが正しく認識され、より多くの方々への広がりを見せていることは、まさに大きな成果を得たと言えると思います。

今後の希望は形式にとらわれることなく、産業界、大学人、臨床家が三位一体となり、より発展させて、わかりやすい魅力あるセミナーを継続したいと願う限りです。



2003年8月号より



第14回日本歯科審美学会のご案内

大会長 新谷英章

【会 期】

平成15年11月1日（土）、2日（日）

【会 場】

広島県歯科医師会館、エソール広島

〒730-0043 広島市中区富士見町11-9

大会長：新谷英章（広島大学大学院医歯薬学総合研究科 教授）

【メインテーマ】

「美しい笑顔と審美歯科：Beautiful Smiles in Esthetic Dentistry」

【学会内容】

会長講演 「歯科審美の社会的評価に関する一考察」石橋寛二（岩手医科大学教授）

特別講演 「星と宇宙」牟田泰三（広島大学長）

教育講演1 「口もとの美」大山喬史（東京医科歯科大学大学院教授）

教育講演2 「韓国の審美歯科事情」Jong-Yeop Lee（韓国歯科審美学会会長）

シンポジウム 「審美歯科における癒し」

「癒しの環境」伊藤あづさ（東北福祉大学）

「癒しの診療室」武智宗則（株式会社タカラスペースデザイン）

「癒しの接遇」佐藤二三江（佐藤歯科医院）

「癒しの診療」椿 智之（ティースアート代表）

テーブルクリニック1

「癒される治療とは。患者さんのところをつかむ審美治療」新野まりあ（株式会社ハロートゥモロージャパン代表）

テーブルクリニック2

「ITと審美歯科技工…患者さんの情報を伝達するには」飯山賢一（株式会社ジーシー）

ポスター発表（一般発表）

器材展示

【市民フォーラム】

「白い歯と美しい笑顔」

「笑顔は地球のことば」松尾 通（アジア歯科審美学会会長）

「ミス日本にみる美人の変遷」和田優子（ミス日本コンテスト事務局）

「トークショー」相沢礼子（2003年度ミス日本グランプリ）

「歯を白くするには」永井茂之（永井歯科診療室院長）

【一般発表（ポスター発表）の演題募集要項】

お申し込み等詳細につきましては、本学会会誌（歯科審美：第15巻第2号）をご参照ください。なお、演題および抄録の締め切りは過ぎておりますが、追加応募の可能な場合もあります。照会先までお問い合わせください。

【参加登録要領】

事前登録は、本学会会誌（歯科審美：第15巻第2号）綴じ込みの郵便払込書、あるいは郵便局備え付けの郵便振込用紙（青色、加入者名：日本歯科審美学会、講座番号：01390-4-77715）に必要事項をご記入の上、平成15年9月30日までに、ご送金くださいますようお願いいたします。通信欄には参加登録される方の個人名（フルネーム）をご記入ください。事前登録費等詳細につきましては、本学会会誌（歯科審美：第15巻第2号）、あるいはホームページをご参照ください。

【照会先】

〒734-8553 広島市南区霞1-2-3

広島大学大学院医歯薬学総合研究科

顎口腔頸部医科学講座（保存修復学研究室）内

第14回日本歯科審美学会学術大会事務局

準備委員長 富士谷盛興

TEL.082-257-5656 FAX.082-257-5659

E-mail : morioki@hiroshima-u.ac.jp

URL : <http://www.jdshinbi.net/meeting/taikai/14th/>





2003年8月号より

第8回アジア歯科審美学会のご案内



Global Esthetic Forum 2004@NAGOYA Sciences in Esthetic Dentistry (審美歯科をサイエンスする)

大会長 千田 彰・愛知学院大学教授

第8回アジア歯科審美学会（AAAD）大会と第15回日本歯科審美学会（JAED）学術大会の併催大会が名古屋国際会議場（名古屋市熱田区熱田西町1番1号）で2004年7月17日（金）から19日（月・祝日）まで開催されます。公式ホテルとしてホテル・グラン・コート名古屋（名古屋市中区金山町1-1-1、全日空ホテルで金山総合駅に隣接する）を使用し、参加者の宿泊や各種の懇親会などに利用する予定です。

間もなく公式な、そして詳細なご案内をさせていただきますが、現在までのところ、IFED会長 Philippe Gallon、カナダマニトバ大学教授Mike Suzuki、オーストラリアメルボルン大学教授Eric Reynoldsほかによる特別講演、予防的審美歯科治療、審美歯科における修復治療（歯冠色修復、インプラントと欠損補綴）、QOLを支える豊かな加齢のための審美治療と題したシンポジウム、アジアにおける審美歯科の意義、アジア発の審美歯科と題し、アジア各国代表によるアジアフォーラム、そのほかメーカー主催による研修、セミナー（ランチョンセミナーも含めて）が盛り沢山企画されています。この大会ではさらに積極的に歯科衛生士、歯科技工士の皆さんにも参加して頂き、セッションを分けず歯科医師も一緒になって参加できるようなプログラム作りを行っています。また最終日には国立博物館人類研究部長の馬場先生と愛知学院大学教授大野先生による市民公開講座（われらがなかま、アジアの人々）を企画しています。

審美歯科が単に「見かけや外観の美しさ」のみを追及するものでなく、幅広い分野にわたって人々の健康と幸せのために貢献して行く、医療の一つであることを、歯科医療に携わる私たちはもちろん、社会にも一段と大きくアピールするきっかけにしたいと思っています。会員諸氏に於かれましては、大会成功のためぜひお力添えを頂きたく、重ねてお願い申し上げます。

(<http://www.jdshinbi.net/aaad/>)



2003年8月号より

セミナーのご案内

審美歯科を先駆する

平成15年度のセミナーを「審美歯科を先駆する」をメインテーマとして、下記のごとく開催企画、立案いたしましたのでご案内いたします。奮って御参加下さりますようお願い申し上げます。

(委員長 佐藤 孝)

第6回 審美歯科臨床の成功のために—マネジメントの重要性

●日時／平成15年9月21日（日）午前10:00～午後4:30

- 「審美歯科成功のためのマネジメント」
- 「審美歯科における効果的パートナーの育成」
- 「インプラント治療を審美的に成功させる要点」
- 「審美修復を成功させるために」
- 「審美補綴を失敗しないために—機能からのマネジメント—」

第7回 審美歯科臨床の基本と先端 新しい修復と接着マテリアル

●日時／平成15年11月23日（日・祝）午前10:00～午後4:30

- 「米国における最新の補綴歯科事情—CAD.CAMの現状、プロセラシステムを含めて—」
- 「最近の接着技術が可能にした新修復法」
- 「支台築造の新しい考え方—レジンコア、ファイバーポスト—」
- 「磁性アタッチメントを利用したこれからのインプラント臨床」
- 「日常臨床での歯科審美の基準」

第8回 審美歯科臨床の最前線 健康美への追求

●日時／平成16年3月20日（土・祝）午前10:00～午後4:30

- 「総義歯補綴から見た審美歯科—インプラントの活用と審美性の回復—」
- 「生体との調和を求めて—審美的補綴治療について—」
- 「生体との調和を求めて—審美的歯周治療について—」
- 「審美歯科における矯正治療—近年の非抜歯治療法—」
- 「新しい審美歯科—不定愁訴と顔のゆがみと咬合—」

●場 所／東京：中央社会保険健康センター ペアール新宿

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-12-1

TEL：03-5285-8686 FAX：03-5285-8633

● 受講料（各回）※昼食代を含む

（日本歯科審美学会会員） 7,000円

（非会員／歯科医師） 15,000円

（非会員／技工士・衛生士） 10,000円

（一般・学生） 7,000円

● 振込先／ 郵便振替口座 口座番号00110-8-12908

加入者名 日本歯科審美学会セミナー委員会

● 申込及び問い合わせ先

〒107-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

（財）口腔保健協会内 日本歯科審美学会セミナー委員会事務局
セミナー申込係

TEL : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341

| [Back](#) |



2003年8月号より

審美学会セミナー・シンポジウムIIに参加して

日本歯科審美学会が2001年から約2年間にわたり開催してきたセミナーの締めくくりとして、「21世紀の審美歯科を築く」と題したシンポジウムが平成15年3月21日（金・祝日）に東京・ゲートシティホールにて盛大に行われた。ゲリー・ウンターブリンク氏（リヒテンシュタイン開業）は最近進歩の著しい接着技法を用いたコンポジットレジン修復やセラミック修復を紹介された。片岡繁夫氏は審美修復における、天然歯の持つ「質感」の再現の重要性とその難しさを強調されていた。筒井昌秀氏は、より高いレベルの審美補綴を行なうには、包括歯科治療が必要不可欠であることを多くの症例を通して示された。本多正明氏は、口元の美しさを回復維持するうえで、安定した咬頭嵌合位の重要性を咬合面形態に着目して症例を呈示しながら説明された。さらに、審美修復に際して以前はブリッジによる広範な修復処理をしたが、今ではインプラントと矯正処置が有効であることを強調されていた。山崎長郎氏はボンディング法の向上により、支台築造も金属のダウエルコアからファイバーポストとレジンによる方法に代わった事、またオールセラミッククラウンによる審美修復の進歩をプロセラの症例を交えながらも呈示されていた。丸山剛郎氏は、真の美しさは、形態だけではなく、機能的な美しさ、さらにはそれによってもたらされる全身の美しさ、さらにはそれと一体となるべき心の美しさの重要性を、最近の全身と咬合の関連性に関する知見から説明されていた。いずれの演者も、歯科修復材料や接着技法の進歩、そしてインプラントの信頼性の向上と各種アバットメントの改良による高いレベルの審美修復の可能性を、すばらしい症例を呈示しながら聴衆に印象づけてくれた。最後に黒田康子氏の司会により、これからさらに新しい展開が必要と思われる歯科医療において、審美歯科の重要性を再認識するとともに、その益々の発展を期待させるような内容の活発な討論が行なわれ、盛会のうちに終了した。今年から始まる次のセミナーに是非期待したい。

（東京都開業 栗原俊也）





2003年8月号より

委員会報告

総務報告

平成14年度会員について（平成15年3月31日現在）

- 会員数1,505名（法人会員を含む）
A会員941名 B会員480名 C会員57名 法人会員27社
- 会員動向について（平成14年4月1日～平成15年3月31日）
新入会194名（社） 退会者124名
- 会費納入率について（平成15年3月31日現在）
納入率 82.8%

日本学術会議関係

- 第1回歯学系全学会連絡協議会開催について
平成15年4月25日、東京・日本学術会議大会議場
- 咬合学研究連絡委員会 第18期第3回シンポジウム開催について（日本顎咬合学会併催）
平成15年6月14日、東京・東京国際フォーラム

評議員の推薦について

新海航一、山口龍司、本山智得、伊藤隆利、渋谷耕司、金子 紳、三浦廣行、以上7名が推薦され、今期評議員に追加された。

（総務担当理事 久光 久）

学術委員会

本学術委員会も来年（平成16年）3月末までの残された任期期間中において、懸案事項につきまして検討・改善に向けて活動を進めております。

1. 第14回日本歯科審美学会学術大会

- 【日程】 本年（平成15年）11月1日（土）・2日（日）
- 【会場】 広島県歯科医師会館、エソール広島
- 【大会長】 新谷英章教授（広島大学）
- 【メインテーマ】 「美しい笑顔と審美歯科 Beautiful Smiles in Esthetic Dentistry」
- 【内容】 会長講演、特別講演、教育講演1・2、シンポジウム、テーブルクリニック1・2、一般発表（ポスター）、市民フォーラム「白い歯と美しい笑顔」、器材展示

参加事前登録〆切：平成15年9月30日
広島で皆様をお待ちしております。

2. 第15回日本歯科審美学会学術大会・第8回アジア歯科審美学会学術大会

- 【日程】 2004年（平成16年）7月17日（土）～19日（月・祝日）
【会場】 名古屋国際会議場
【大会長】 千田 彰教授（愛知学院大学）
【メインテーマ】 「Global Esthetic Forum 2004 @ NAGOYA」

アジア歯科審美学会は、日本歯科審美学会がホストでもあり会員の皆様には名古屋に盛大にご参集下さい。

3. 第14回学術大会において前回（第13回）大会の各種表彰が行なわれます

デンツプライ賞：石川正夫氏（ライオン歯科衛生研究所）
学会優秀発表賞：現在選考準備中です

学術委員会委員：浅田雅之、市川哲雄、大槻昌幸、木村幸平（委員長）、妹尾輝明、東光照夫、富士谷盛興、古田喜代子、細田幸平、安田 登、依田正信（幹事）（敬称略アイウエオ順）

オブザーバー：佐藤 孝セミナー委員長、長岡英一編集委員長、黒田康子広報委員長

（委員長 木村幸平）

編集委員会

本年度第一回の編集委員会において16巻1号の編集作業を行いました。関係各位のご協力のもとにシンポジウム「歯科審美学教授要綱をいかに活用すべきか」と誌上座談会「生涯学習」を掲載できる運びとなりました。いずれも会員の皆様の参考になる貴重な意見が披瀝されています。

「歯科審美」にとって、原著論文の投稿促進を計ることが重要な課題ですが、編集方針としては、未投稿講演論文への対処としての事前抄録掲載はしないことにし、一般発表の内容は事後抄録として掲載する準備を進めるとともに、講演論文に頼らない誌面充実策として種々の方法（誌上セミナー、特集、臨床のヒントや各種術式、総説など）を検討しています。17巻2号から新しい誌面構成にする予定ですが、誌面の充実のためには、学術委員会やセミナー委員会との緊密な連携、理事や評議員はじめ会員の皆様のなお一層のご協力が必要です。特に、りっぱな臨床実績をお持ちで、会員に魅力ある講演をして下さる先生方には、その講演内容を総説や臨床のヒントなどの論文として寄稿いただくと、会員の皆様が是非読んでみたいと思う「歯科審美」にできると考えています。

今後も、歯科審美の充実のため編集委員一同尽力いたしますので、会員各位のなお一層のご支援をお願い申し上げます。

（委員長 長岡英一）

国際渉外委員会

国際渉外につきご支援を頂き有難うございます。ご承知の通り、審美歯科は臨床全般を幅広くカバーする学際的、かつ国際的な分野です。まして昨今のIT化、グローバル化の中にあっては否応なしに国際的な情報収集も必要で、本委員会が少しでも皆様のお役にたてればと考えています。

ちなみに本学会が直接関連するこれからの国際学会は、第8回アジア歯科審美学会（Global Esthetic Forum 2004@NAGOYA）と、フィレンツェ、京都、ワシントンと順調に続いてきた国際歯科審美学会（IFED）の大会で、これは来年5月にイタリアのベニスで開催されます。日本（アジア地域）からは桑田正博先生が特別講演の演者としてすでに指名されています。また8ないし12名の加盟学会から公式演者が指名される予定で、本学会からも選抜してもらうべく運動中です。（講演内容、英語力、アピール性、映像が厳しく評価されます）

昨年のワシントン大会や今回のベニス大会を機に、IFEDの大会開催についてはしっかりとした信念、基準、規約に基づいて実施することが申し合わせされ、開催学会とIFEDの間で大会ごとに契約書なども交わすことになっています。ベニスの後は3年後の2007年に韓国・ソウルでの開催が決まりました。その後は2年ごとの開催の方向となっています。

また本年11月の第14回大会（広島）にはアジア歯科審美学会（AAAD）の理事会を招くことになっています。会員諸氏には広島大会ご出席の折にアジアの審美仲間とぜひ交流をして頂きたくご案内します。

さらに本学会ホームページが大改定され、英語バージョンも充実し、国際的な窓口としていよいよデビューします。会員諸氏にはこのページを利用されるか、IFEDのホームページ（<http://www.ifed.org>）に直接入って頂き、世界の審美事情を体験されることをお勧めします。

（委員長 千田 彰）

認定審議会

第14期（平成15年度秋季）認定医申請の受付を実施いたします。希望者は受付期間中に申請書類を（財）口腔保健協会の学会事務局宛にご送付下さい。なお、詳細は「歯科審美」第16巻第1号に掲載する“認定医申請手続きに関してのお知らせ”をご参照下さい。

認定医申請受付期間：平成15年10月6日（月）～平成15年11月7日（金・必着）

（委員長 加藤喜郎）

認定士制度検討委員会

日本歯科審美学会認定士制度発足を目指して

日本歯科審美学会では、先のニュースレター第7号でもご案内したように、広く歯科技工士、歯科衛生士の方で歯科審美分野でご活躍の方々を対象とした日本歯科審美学会認定士制度を本年度中に発足させるべく、認定士制度検討委員会で種々検討を重ねているところです。

本制度は、歯科審美学の専門的知識及び臨床技能・経験を有する歯科技工士、歯科衛生士により歯科審美医療の高度な水準の維持と向上を図り、国民の保健福祉に貢献することを目的としています。

本制度の対象となる方は、日本歯科審美学会の会員で歯科審美に関して臨床、教育、研究の場で活躍されている歯科技工士、歯科衛生士の方となります。歯科技工士に関しては、歯科審美の中でも専門分野を設けていますので、ご自分が得意とする分野での審美歯科技工技能を修得したことを、また、歯科衛生士は日頃の口腔衛生技能の修得状況を学会が認め、その結果を社会にアピールすることが可能となります。また、この認定士資格を取得された方は、歯科医師または歯科技工士、歯科衛生士からの要請に応じて適切な対応もしくは指示を与えることのできる能力を有する方として、歯科審美に関連する領域の啓発活動に期待するところです。そして、将来的には本制度を世界に発信し海外の方々にも対象者になっていただきたいと思います。

この制度の詳細な内容については、本年11月1日（土）、2日（日）に広島で開催されます本学会の評議員会、総会後にお知らせする予定ですが、本制度発足時は、より多くの歯科技工士、歯科衛生士の方々にこの制度を理解、活用をしていただくべく5年間の暫定措置を設ける予定ですので、多数の歯科技工士、歯科衛生士の方が本制度の目的、主旨に賛同いただき申請いただけることをお待ちしております。

(委員 齋木好太郎)

広報委員会

ホームページが更新されました。

今や審美歯科という言葉は多くの一般市民の意識の中に根つき、口腔衛生や歯科医療に対する関心度を高めることに役立ってきました。健康保険制度に基づく医療が主体とはいえ、様々な情報が氾濫する今日、患者の意識がインフォームド・チョイスの時代に移行してきていることも事実でしょう。信頼し得る確かな情報をと望んでいる一般の人々に対して、歯科審美学会として責任ある情報を提供することは、一つの責務であろうと考えた結果、一般向けのページを作製し、認定医を公開いたしました。

広報委員会では、偏らない姿勢で内容を作製したつもりですが、不十分な点が多々あると思いますし、もっと相応しい提示の方法もあろうかと思えます。ホームページは随時更新いたしますので、会員の皆様の忌憚のないご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

今後は、English Sessionを充実させるよう検討して参ります。

日本歯科審美学会ホームページ (<http://www.jdshinbi.net/>)



〈お詫びと訂正〉

Newsletter Vol.7の学術大会報告におきまして、13回大会のデンツプライ賞の受賞者をライオン歯科衛生研究所の石川氏、今西氏と記載いたしましたが、石川正夫氏、渋谷耕司氏の誤りでした。ここに訂正し、関係者にお詫び申し上げます。

| [Back](#) |



2003年8月号より

美白の世界—Beautiful Ageing—

平成15年4月12日（土）、13（日）の2日間にわたり「美白の世界—Beautiful Ageing—」という大会テーマのもとに、第3回日本歯科漂白研究会学術大会が約300名の参加者を集めて名古屋国際会議場白鳥ホールにおいて開催された。

初日はワークショップと懇親会が企画され、ワークショップでは米国最大の歯科審美学会（AACD）会長、Wynn Okuda先生による最新のダイレクト・レジン・ボンディング・テクニックが実演を交えて紹介され、卓越した技術と治療効果に対する確実なサイエンスの裏付けから表現される自然観溢れる前歯部審美修復は、まさに審美歯科治療に於けるScience and Artそのものの実践であり全受講者の感動を呼んだ。

ワークショップに続いて、懇親会はマリオット・アソシアホテルで開催され会場には溢れるほどの多くの会員が参加した。はじめに本会会長松尾通先生のホワイトニングを中心とする歯科医療の明るい展望について力強く活気にみちた挨拶があり、これに続いて大会長田島伸也先生の明るく、楽しく、ユーモアのあるトーク、そしてアトラクションとしてプロデビューしている広みどり先生のお嬢さんのライブ及び、Okuda先生の素晴らしい歌唱力等が披露され、多才な顔ぶれの中、会員同士の親睦も図られアットホームな楽しい会となった。

第2日目はWynn Okuda先生による特別講演「Nes Creative Dentistry」が行われワークショップ同様最新のテクニックと材料を組み合わせたダイレクト・レジン・ボンディング・テクニックによる全顎的審美歯冠修復処置を含む数多くの症例報告がされ、臨床を専門とする会員各位に益するところが大きかったと思う。

文化講演ではOkuda先生の患者さんでもあるタレントのキャシー中島さんによる「心はいつも幸せ色」と題し、自作の目に鮮やかな色彩のハワイアンパッチワークキルトを背景に、パッチワークの製作を通し得てきた素敵人生観について話され、ほんのひとときの幸せな時を過ごすことができた。

教育講演では愛知学院大学歯学部保存学教授千田彰先生の「審美歯科を支えるサイエンス」と題し、質の高い医療コンセプトに立脚した審美歯科のあり方から実際の歯科臨床に於ける手法、使用される器材及びその効果にはサイエンスの裏付け、すなわちエビデンスが必要でありその重要性まで多岐にわたって詳しく解説された。そして最後に「実践の中にこそ知識が生まれ、そして理解がなされる」というすばらしい言葉で講演を締めくくり、歯科医療に対する先生の姿勢を感じることができた。

ワークショップでは椿智之先生の「ホームホワイトニング」、永井茂之先生の「オフィスホワイトニング」、永瀬佳奈先生の「ホワイトニングのためのPMTTC」と各先生方の個性溢れるパフォーマンスとユーモアのある講義内容は特に若い先生方にとってとても刺激的だったのではないかと思われる。また、ポスターセッション10題の口演発表は当日朝ビデオ撮影して展示会場で随時放映するというユニークな企画で、そして学術大会に併せて設営された展示会場には40社程の審美歯科関連業者の展示があり、しかも学術大会の会場と隣り合わせの位置で、ポスター発表と同じ空間で行われたことは大変すばらしい発想であり、会場に足を運ばれた会員の先生方も非常に多く大盛況の展示会となった。

この大会を通じてホワイトニングを中心とする予防・審美歯科の実践は治療回復型医療から快

適健康医療への転換の重要な指針となり、今後患者の日々の健康と幸福に貢献できるMinimal Interventionにのっとった効果的処置として、その真価をさらに発揮することが期待される予感がした。

(東京都開業 武田英司)

| [Back](#) |



2003年8月号より

関連学会開催案内

- **日本歯科保存学会**（2003年秋季大会・119回）
岐阜・長良川国際会議場 2003年11/6～11/7
- **日本補綴歯科学会**（第110回学術大会）
長野・長野県民文化会館 2003年10/24～10/25
- **日本矯正歯科学会**（第62回大会）
新潟・朱鷺メッセ 2003年10/8～10/10
- **日本歯周病学会**（第46回秋季学術大会）
新潟・朱鷺メッセ 2003年10/17～10/18
- **日本歯科東洋医学会**（第1回国際大会・第21回学術大会）
東京・日本歯科大学 2003年11/14～11/16
- **日本歯科技工学会**（第25回学術大会）
北海道・札幌コンベンションセンター 2003年8/9～8/10
- **日本全身咬合学会**（第13回学術大会）
新潟・新潟県歯科医師会館 2003年11/29～11/30
- **日本歯科人間ドック学会**（第6回学会）
鶴見・鶴見大学会館 2003年12/7
- **日本接着歯学会**（第22回学術大会）
鹿児島・鹿児島市民文化ホール 2004年1/24～1/25